

美術科

西澤 明

共同研究者 鷺山 靖（金沢大学）

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

学習指導要領に示された三つの柱，①「知識及び技能」，②「思考力，判断力，表現力等」，③「学びに向かう力，人間性等」を踏まえ，美術科では育成を目指す資質・能力を，①については「造形的な視点を豊かにするために必要な知識，表現における創造的な技能」，②については「表現における発想や構想と，鑑賞における見方や感じ方など」，③については「学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情，豊かな感性や情操など」と説明されている。

文部科学省による政府報告書には，Society5.0の実現に必要な資質・能力の一つとして「価値を見つけ出す感性と力，好奇心・探求心」とあり，「AIによって代替できない人間ならではの営みであり（中略），自然体験やホンモノに触れる実体験を通じて醸成される豊かな感性や，多くのアイデアを生み出す思考の流暢性，感性や知性に基づく独創性と対話を通じて更に世界を広げる創造力，苦心してモノを作り上げる力，新しいものや変わっていくものに対する好奇心や探求力，実践から学び自信につなげていく力などが重要である」と説明されている。これは上記，美術科で育成を目指す資質・能力，とりわけ「学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情，豊かな感性や情操など」と密接な関わりを持っていると言える。

今年度，本校の研究では，「STEAM教育を踏まえた教科等横断プロジェクトの作成」を活動方針とし，教科等の種類は限定せず，複数教科等の資質・能力や見方・考え方を活用して実社会の問題解決に向かう授業の実践を目指している。そのため美術科では，これまで積み重ねてきた学習活動を基本に他教科等とのつながりを策定し，連携を図りながら，豊かな感性や情操などの育成に焦点を当てた取り組みを行いたいと考えた。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

本校では，「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力」を右のようにまとめ，共有した上で，各教科が実践研究を進めている。美術科で育成を目指す資質・能力との関わりについては，「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」が共通する目標であるのはもとより，「イノベーターのマインドセット」の，型にはまらない，ひとまずやってみる，失敗して前進するといった取り組みの姿勢は，表現活動の制作における考え方と共通したものである。また「多様性の尊重」の考え方は，鑑賞活動の基盤となる資質・能力だと言っても過言ではない。

本校が定める Society5.0を主体的に生きるための資質・能力

- デザイン思考
- イノベーターのマインドセット
- より良く生きようとする態度
- 多様性の尊重
- 自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性
- 持続可能な社会を志向する倫理観・価値観
- 文章を読み解く力
- 対話する力
- 論理的思考
- 批判的思考

(2) 他の教科と関連・連携を図ったプロジェクトについて

第1学年「祈り・願いの企画展」

美術科の鑑賞活動では様々な時代の造形作品について扱うが、社会科でも歴史分野の学習の中で、その時代の文化や作品が扱われている。そこで社会科と関連、連携を図ったプロジェクトができないか考えた。

社会科の歴史分野で扱う様々な時代の文化や造形作品は、それがどのような歴史的背景の中で生まれたのかを学習するが、美術科では、時代の流れよりも造形作品そのものを対象に学習していく。基本的な知識（作者、時代、素材、技法など）の学習と、それ以上に作品から受ける自分自身の感じ方や感想を大切に、豊かな感性を育むことを主たる目的としている。しかし、社会科、美術科共に、作品を作った人々の考えや思いという共通項があることから、「祈り・願い」をテーマとして関連・連携を図ることにした。

具体的には、社会科で学習した、土偶、仏像にこめられた人々の「祈り・願い」を踏まえ、美術科では「祈り・願い」をテーマにしたテラコッタ作品の制作を行うことにした。作品完成後は「祈り・願い」をテーマに展示を行う予定であり、その際、制作の意図や社会科との関わり等についての説明文を書くことで、国語科がプロジェクトに携われることも考えた。

美術科の具体的な活動内容については、社会科で扱われる土偶や仏像等の文化遺産以外に、狛犬、シーサー、鬼瓦、京都の鍾馗さん等を紹介することで、多産や豊穰、救済や守護といった「祈り・願い」の思いを一層明確にし、人間が時代や国を超えて人間が時代を超えて「祈り・願い」をのさらにテーマを現代社会や自分自身の「祈り・願い」にすることで、より自分事とした取り組みとし、主体的な取り組みや、発想、構想をしやすくすることを目指した。

第3学年「幼児向けに紙芝居をつくろう」

技術・家庭科家庭分野の幼児教育に関する学習活動で、紙芝居を作り、実際に幼児に見せる取り組みがあり、その紙芝居の制作の一部に美術科に関わることにした。紙芝居の話の内容や実際の制作については家庭科が行うが、そのキャラクターのデザインを担当した。キャラクターが人物や動物の場合、中学生の大半は実際の姿形を描こうとする傾向があり、それが上手く描けないという問題がある。ここでは幼稚園児対象の紙芝居ということで、幼児が親しみやすいキャラクターの姿にデザインしたいと考えた。様々な絵本原画から実際の作品例を見せながら、キャラクターの特徴を生かしつつ「省略・単純化・誇張・バランス」といった観点でデザインさせた。

第3学年「俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう」

外国人が日本語の書かれたTシャツを着たり、日本人が外国語の書かれたTシャツを着たりする姿を見る機会が多い。しかしその内容の中には、不適切だったり意味がわかりにくかったりするものも見受けられる。その状況を課題として捉え、国語科、数学科、英語科で連携したプロジェクトを計画した。

国語科では、俳句の学習を通して日本文化のよさを味わい、Tシャツのテーマにする作品を考えた。数学科では、外国人に実施したアンケートの結果を標本調査して外国人の好みを分析し、美術科ではその俳句の文章を、フォント、色、大きさ、位置といった観点から、コンピューターを用いてデザインする。さらに英語科では、そのTシャツに書かれた俳句の世界観を英語で外国人に伝える活動を行った。

1年 題材名「祈りと願いの表現」 プロジェクト名「祈りと願いの企画展」

題材計画（7時間扱い）本時は2時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○） 3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定めるSociety5.0を 主体的に生きるための資 質・能力
1	1 ～ 2 本 時	<p>■「祈り」や「願い」の対象の造形物を鑑賞する。</p> <p>①「祈り」や「願い」の対象事例（土偶・神仏像・シーサー・狛犬・鬼瓦・鍾馗さんなど）を鑑賞する。</p> <p>②対象にこめられた人々の「祈り」や「願い」について考える。</p>	<p>○時代を超えて人々が「祈り」や「願い」の拠り所としてきた文化のよさを味わい、主体的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。【態】</p> <p>・造形の美しさ，面白さだけでなく，その背景にある人々の思いに気付かせる。</p>	
		<p>■「祈り」や「願い」について考える。</p> <p>①現代社会の問題，解決したいことについて考える。</p> <p>②日々の生活で悩んでいること，解決したいこと，避けたいこと，望んでいることなど，自分自身の「祈り」や「願い」について考える。</p>	<p>○現代社会の問題や，自分の生活をあらためて見つめ，「祈り」や「願い」の対象となる事柄を考えようとしている。【態】</p> <p>・現代社会の問題や課題について，コロナ禍やSDGsの視点等と関連付けながら考えさせる。</p>	「より良く生きようとする態度」
2	3 ～ 4	<p>■制作のテーマ決定と，体现の構想をすすめる。</p> <p>①自分自身の「祈り」や「願い」から主題を決め，アイデアスケッチをしながらイメージをまとめていく。</p>	<p>○主題を生み出し，豊かに発想し構想を練っている。【思】</p>	
		<p>■粘土によるイメージの試作をする。</p> <p>①アイデアスケッチを立体として実際に作り，造形の可能性を確認する。</p> <p>②素材である粘土を実際に触ることで，基礎的，基本的な扱いを体験，実感してみる。</p> <p>③授業の最後にいったん造形を崩す。</p>	<p>○主題の意図に応じて表現方法を工夫しながら，「祈り」や「願い」を体现しようとしている。</p> <p>○粘土の特性を生かしながら構想を形にしようとしている。【思】</p>	
3	5 ～ 7	<p>■本制作を行う。</p> <p>①粘土べらを使いながら本制作を進める。</p>	<p>○粘土の特性や用具の生かし方を身に付け，意図に応じて工夫して構想を表している。【知】</p> <p>・より美しい仕上がりを目指すこと，陶器としての堅牢さがあることを注意させる。</p>	「実体験を通して醸成される感性」
4	後日	<p>■作品を展示し相互鑑賞をする。</p> <p>①制作意図や解説の文章を作成し，作品と共に展示する。</p>	<p>・国語科における解説文の学習，社会科における地域の文化を踏まえた内容にさせる。</p>	「実体験を通して醸成される感性」

実践事例

教科名「美術科」・学年「1年」

授業者	西澤 明	授業クラス	1年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
祈りと願いの企画展		社会科「身近な地域の歴史」 国語科「作品の解説文を書こう」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「よりよく生きようとする態度」		時代を超えて人々が拠り所としてきた「祈り」や「願い」の文化のよさを味わい、主体的に鑑賞の学習に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 現代社会の問題や、自分の生活をあらためて見つけ、祈りや「願い」の対象となる事柄を考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	
STEAM 教育の視点			
<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活には様々な「祈りや願い」の対象物がある。その「祈りや願い」の背景や表現方法に焦点を当てた活動を行う。 複数の教科等の資質・能力や見方・考え方の活用、実社会の問題解決としては、社会科の歴史的文化的学習における作者やその時代の人々の思いを踏まえ、作品の主題を現代社会における人々の祈りや願い、生徒たち自身の祈りや願いと関連付ける。 完成した作品を展示する際、作品の「祈りや願い」については社会科の学習と結び付けた解説をさせる。その際、考えを伝えるためのよりよい言語化については、国語科と連携を図る。 			
本時の授業のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> 人々の様々な「祈りや願い」を理解し、自分自身の「祈りや願い」について考える。 自分自身の「祈りや願い」を叶えるものの表現の構想をする。 			
授業の流れ・活動等			時間
1. スライド画像で「祈りや願い」の対象の事例を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 豊穰祈願, 鎮魂 など (土偶など) 無病息災, 極楽往生, 商売繁盛 など (神仏像など) 魔除け, 邪気払い, 守護 など (シーサー, 狛犬, 鬼瓦, 鍾馗さんなど) 			30
2. 本単元の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">人々の「祈りと願い」を理解し、自分自身の「祈りと願い」をテラコッタで表現する</div>			2
3. 現代社会の問題や課題を考える。 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍 など SDGs の 17 の目標とのつながり 貧困・飢餓・健康福祉・教育・ジェンダー・水トイレ・エネルギー・経済・産業・平等・まちづくり・作る使う・気候変動・豊かな海・豊かな陸・平和・公正・パートナーシップ 			5
4. 自分自身の「祈りや願い」を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 悩んでいること, 解決したいこと, 避けたいこと, 望んでいること など 日々の生活, 人との関係 など 			10
振り返りと次時の確認をする。			3